

リアルタイム線量測定システムの配置の見直しに関する住民説明会（いわき市）

議事録

日時：平成30年10月13日（土）14：00～

場所：勿来市民会館 ホール

議事

○南山総括調整官 定刻となりましたので、リアルタイム線量測定システムの配置の見直しに関しますいわき市の第2回の住民説明会を開始させていただきます。

皆様、お忙しいところをお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また、いわき市勿来市民会館の皆様にも大変御協力いただきまして、ありがとうございます。

原子力規制庁からの説明者、紹介させていただきます。

こちらから、東京から参っております武山監視情報課長でございます。滝田補佐、伊藤でございます。それから、南相馬の第一規制事務所から河村専門官、福島の現地対策本部から鈴木専門官、司会進行、私、福島総括しております南相馬在住の南山と申します。どうぞよろしく願いいたします。

座らせていただきます。

では、説明会の進行につきまして御案内いたします。

まず、原子力規制庁の武山課長より、お手元の資料と正面のプロジェクターを用いて説明をさせていただきます。次に、会場の皆様から御意見、御質問をいただき、質疑応答をさせていただきますと思います。

御発言につきましてですが、お手を挙げていただいた中から、係の者がマイクをお渡しいたしますので、座ったままで結構でございます。マイクをお使いになってお話ししていただくようお願いいたします。

説明会の模様につきましては、録画をしております。後日、原子力規制委員会ホームページのほうで公表させていただくという手続になっておりますので、あらかじめ御了承願います。

また、本日、終了予定時刻は16時とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

よろしゅうございますでしょうか。

では、武山課長から説明のほうお願いいたします。

○武山監視情報課長 いわき市の皆さん、こんにちは。

私、原子力規制庁監視情報課長の武山と申します。

まず、御説明に入る前に原子力規制委員会原子力規制庁というところについて御紹介をさせていただければと思います。平成23年の3月11日の福島第一原子力発電所事故、この事故の教訓に立って、それまでの原子力規制組織というの解体をして、二度とこのような事故を起こさないようにということで、平成24年の9月に発足をした組織が原子力規制委員会という組織でございます。その事務局が原子力規制庁というところでございます。原子力規制委員会は学識経験者5人から成っている組織でございます、その下に事務局である我々がいます、こういうことでございます。お仕事としては原子力発電所などの規制ということで、新規制基準審査とか検査といったものを行うということと、万が一事故があったときには、避難などを行う、一時移転とかですね、そういったものを指示をする上での技術的な助言なりをすると、指示をするということでございます。また、我々、監視情報課という課は、北海道から沖縄まで全国モニタリングポストがございまして、モニタリングポストで放射線の監視というのをしているというところでございます。

それでは、お手元の資料を、また、こちらのスライド、同じものでございますけれども、これに沿って御説明をさせていただければと思います。

まず、3ページをお開きいただければと思います。「はじめに」というのがございます。今回の説明会というのがどういうものかということでございまして、まず、我々、事故が起きてモニタリングポストを数多く設置をしまいりました。現状、放射線のレベルが徐々に下がってきているという状況がございまして、こういう状況を考えたときに、モニタリングポストの今の状況、こういったものについて、今後、どうしたらいいかということでございます。このままでいいかということも含めて考えなきゃいけないなということでございます。当然いろいろ行政上の問題、例えば予算だとか、一応そういう機械ですので耐用年数、こういったものもございましてけれども、基本そういう線量が下がってきているという状況を考えたときに、今後のこれからどうあるべきかということについて考えているということでございます。今日、そういう意味で、一つのモニタリングポストの配置の見直しということを御説明させていただきますけれども、これについて皆様の御意見を率直にお聞きするというのが今日の趣旨でございます。それを踏まえて、我々としてもどうあるべきかということをお客様と一緒に考えたい、こういうふうに考えております。

それから、次のページ、ございます。4ページ、福島県内の放射線監視体制ということでございます。まず、モニタリングポストといたしても、実は4種類ほどございます。1つは赤い丸が2,974台と書いておりますけれども、こちらリアルタイム線量測定システムというものでございます。これは学校、保育園、幼稚園、こういったところについております。また、ここの近くですと、このまず市民会館ですかね、それからあと公民館、隣に公民館ございますけれども、そちらにもついているというものでございます。駐車場のところに行っていいただければわかると思いますけれども、表示がついている、こういうものでございます。また、緑のポツが576台、可搬型モニタリングポストというのがございます。こちらはいわゆる福島県内満遍なく放射線の監視をするということございまして、浜通り、中通り辺りだと5kmメッシュぐらいで、また、会津のほうだと10kmメッシュぐらいで置いているものでございます。

こちらですと勿来の支所、隣に支所がございまして、そちらに可搬型モニタリングポストというのがついております。非常に近いところでございますけれどもあります。それから、青い水準ポストというのがございます。こちらは12台ございますけれども、こちら全国、北海道から沖縄まで放射線のレベルを監視して比較をしているわけですが、そのために、比較をするということで置いているものでございまして、こちら12台ほど福島県の中にはございます。

それから、監視ポストでございますけど、これが39台。これは何かといいますと、福島第一、第二原発の周り、大体周辺30km圏内でございますけれども、いわきも一部入っておりますけれども、そういうところについているものでございまして、これは福島第一、第二原発の何かあったときの監視用ということでございます。これら以外にいわき市さんの場合ですと、いわき市さんのほうで例えば仮置場ですね、除去土壌の仮置場に赤いリアルタイム線量測定システムと同じものが設置をされております。

それから、次のスライドを御覧ください。5ページでございますけれども、先ほどの、まず、各々のモニタリングポストがどういうものかということについて御紹介をさせていただければと思います。

まず、リアルタイム線量測定システム、左側でございますけれども、こちら先ほどの赤いところでございますけれども、このようなものがいわき市内には416台ございます。また、右側ですね、可搬型モニタリングポスト、こちら大体2種類のものがついておりますけれども、これが576台ということで、いわき市さんのほうでは50台、両方合わせて50台ほど

設置をしているというものでございます。ちょっと測定範囲等で単位の表示が違いますけれども、 μSv と μGy ということで、まず、右側の μGy というのが、これは空気吸収線量ということで、空気に吸収されるエネルギーの量をあらわしていて、それを測定をしていると。それをもとにして人体の影響を勘案して換算をしたものが左側の μSv という単位なんですけれども、そのような表示になっているということでございます。ほぼ大体同じような数字でございまして、区別はそうすることなくお考えになればというふうに思います。

また、可搬型モニタリングポストのほうは、少し低い線量率のほうでは精度はよくなっているということでございますし、また、リアルタイム線量測定システムの場合は、いわゆる事故後、学校の状況を把握するというので、いわゆる放射性セシウムが降ってきて、それでもって汚染されているわけなんですけれども、その放射性セシウムによる放射線というものをよく測れるように調整をしているというものでございます。また、可搬型モニタリングポストのほうは、こちらいろんな放射性核種、セシウムだけではなくていろんな核種に対してエネルギーに応じて正確に測れるようなことでできているというものでございます。

それから、次のページを御覧いただければと思います。いわき市内にあるポストということで、そのほかに水準ポストというのがございます。こちらいわき市さんのほうでは1台、左、日立製です、ありまして、これは全国のモニタリングポストを、全国の都道府県との比較をするということでございまして、低線量のほうを線量を測るというものでございます。また、監視ポスト、こちらはいわき市さんところには5台ございますけれども、こちらは先ほどの可搬型モニタリングポストと同様な形で測ることができるようになっていて、こちら原発の監視用ということで、原発に何かあったときに、こちらでもってある値になったときに、これでもって防護措置を講じるというものでございます。

それから、7ページでございまして、放射線量の状況ということでございます。こちら、いわき市のリアルタイム線量測定システムを419台、先ほど416台と申し上げましたけど、その後、8月、9月において、そこの子どもさんの施設がなくなったりとかして撤去しているものがございます。それが3台ほどございますので、今、416台ですけれども、もともと当初419台ございまして、その平均の空間線量率というのの推移でございまして、これは全部のシステムのトータルのもので平均ということになりますけれども、このような緑の線で推移していると。青いところの帯については、これは47都道府県で設置されている水準ポスト、事故以前の17年間の測定値の1日の平均ですね、それをあらわし

ているものでございまして、一番低いところだと青森県の0.01、高いところだと山口県の0.115と、こういうレベルにございまして、こういう範囲にございます。いわき市の平均でございますけれども、そういうふうなレベルに入ってきているということでございます。

それから、8ページでございますけれども、いわき市におけるリアルタイム線量測定システムの平均空間線量率でございまして、これは1個1個のリアルタイム線量測定システムですね、それについて去年の4月から今年の3月、1年間ですけれども、その平均値がどの線量率の幅に入っているかということのグラフでございまして、一番多いところで130個ございますけど、それが大体0.08～0.09という、そういう範囲に入っているというものでございます。一番低いところだと0.05～0.06のところは3台ほど、一番高いところだと0.16～0.17が1台ということでございます。このような形で分布がなされているということでございます。

それから、9ページでございますけれども、これは第一原発の現状ということで、こちら今、第一原発のほうから特に距離隔てて影響があるとすると、ガス状の放射性物質、気体状の放射性物質というものが飛んでくるということに対しての今の現状でございます。まず一つはガス状の放射性物質、これは原子炉建屋から放出されているわけですが、今もですね、原発の周辺、原発の敷地の境界においてどのくらいの影響があるかということの計算でございまして、今現状は1年間で1万分の5mSv、 μ Svに直しますと0.5 μ Svというところの未満に落ちついているということが現状でございます。

また、瓦れき撤去、こういったものも行われるわけですが、敷地境界の大気中の放射性物質濃度は法令基準以下となっていることを確認しているという状況になっております。法令基準と申しますと、これは例えばセシウムであれば、134のセシウムであれば20Bq、1 m^3 当たり20Bqというのが法令基準になっておりまして、これは1年間それを吸って1mSvの被ばくということでございまして、そのぐらいのものの基準ということでございますけれども、それよりも低くなっているという状況にはなっているということでございます。また、これからまた廃炉作業とか行われることとなりますので、そういう、こういうレベルに落ちついているかどうかということの確認をしていくということになろうかと思っております。

それから、10ページでございますけれども、これは除去土壌などの安全管理ということでございまして、いわき市さんの中にはまだ除去土壌が保管されている仮置場が22カ所ほ

どあるとお聞きしております。また、一般住宅等の現場保管の数、こういったところに現場保管においても140カ所ほどまだあるというふう聞いております。先ほど申し上げましたが、いわゆるいわき市さんのほうでは仮置場においてモニタリングポスト、リアルタイム線量測定システムと同じものを置いて、そこでもって確認をしているということでございますし、また、サーベイメーターとって持ち運びができるものでも週1回ほど測定をしたりとかしているということでございます。

それから、次のページでございますけれども、除去土壌の運搬でございます。こちら除去土壌については仮置場から中間貯蔵施設まで持って行くわけですが、これは環境省のほうで輸送路において、特に輸送車が集中するところ、箇所、そういったところに置いてモニタリング等行っております。また、輸送時の安全対策としては、運搬先とか運搬元での表面線量というのを測定をいわき市さんのほうで行っているというふう聞いております。

また、今、現状、まだ搬出されていませんけれども、搬出する目処として、例えばいわき市さんから伺った情報によりますと、仮置場からの全搬出の見込みの時期というのは平成33年度を予定していると聞いております。また、現場保管、学校などでの現場保管ですね、これについては平成32年度に全搬出が見込めるのではないかと聞いていたところでございます。また、学校以外のところも同じように全搬出をしなければいけないんですが、公園とかですけれども、これは平成30年度、今年度を一応予定しているというふう伺っているところでございます。

それから、次のページですね、12ページでございますけれども、見直しについてということでございます。我々、今のような状況を踏まえて、まずこれ一つの案でございますけれども、我々としては可搬型モニタリングポスト、水準ポスト、監視ポストという3種類のポスト、これをまず維持をしていきたいと思っています。これによって放射線の監視を継続するという事を考えておまして、赤いリアルタイム線量測定システムについては線量の低いところということについては配置を見直していきたいということでございまして、これは低いところを、例えば今考えているレベルとしては $0.23 \mu\text{Sv/h}$ と、こういう値です。これよりも低いところですね、こういう低いところについては撤去をして、またより高いところに移していくとかいう、そういったことで、使えるものについては高いところに移していくというようなことも考えていきたいなというふうに思っているところでございます。

このような形でどうかということが一つの案でございまして、また次のページを開いていただきますと、モニタリングポストに加えて今、現状もあるんですけれども、13ページありますように……。

○南山総括調整官 ゆっくりと。課長、ちょっとゆっくりと話を。

○武山監視情報課長 はい。

○参加者 もっとゆっくり話さないと、聞き取れない部分があつて……。

○武山監視情報課長 わかりました。すみません。

じゃあ、13ページでございましてけれども、身近な線量を測るためにということでございます。簡単にどこでもということでございます。これはサーベイメーター、こういったものがございまして。いわき市さんのほうにも670台ほど我々のほうから貸し出しをしていて、それから、それを市町村、皆さん、市民の方にお貸ししているということを聞いております。このようなものもございまして。先ほどモニタリングポストについては場所が固定されているところがございますので、その場所の線量というのは測れますけれども、モニタリングポストも設置の制約もございまして、モニタリングポストがないようなところ、そういったところについてはこういうサーベイメーターでもって測ることができるということでございます。我々はこういう2つのものを合わせて放射線の監視というのをする必要があるというふうに考えているところでございます。

また、今日これから皆さんにいろいろお聞きを、御意見をいただくわけですが、今日はなかなか時間の制約もございまして、この説明会が終わった後に、また問い合わせ窓口ということで、次のページにありますような放射線に関する問い合わせ窓口というのが設けられております。フリーダイヤルでございまして、受け付け時間、平日、または休みです。両方ともこのような時間に受け付けているところでございまして、ぜひ御活用いただければと思います。

私からの説明は以上でございまして。

○南山総括調整官 ちょっと会場、このマイクもそうなんですけども、なかなか手際が、うまく切ったりすることもできませんので、まず皆さん方にお手を挙げていただいて、御質問、御意見を承りたいと思いますが。ちょっとお待ちください。

じゃあ、後ろのほうから2列目の女性の方からお願いいたします。今マイクが参りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。どうぞお座りになってお話しください。

○参加者 先ほど少しゆっくり話ししてほしいって申し上げた者です。

10ページと11ページ、12ページについて、もう一度ゆっくり丁寧に御説明いただきたい
と思います。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

10ページ以降のところを少し。

○武山監視情報課長 わかりました。

10ページ、除去土壌などの安全管理、保管のところでございますね。ここで申し上げま
したのは、まず、除去土壌が仮置場というところに保管されているわけです。それがいわ
き市さんのほうでは22カ所ほどあるというふうにお聞きをしております。また、仮置場と
いうところ以外に一般住宅などで現場保管というものも行われていると聞いておきまして、
140カ所ほどございます。放射線のモニタリング、放射線ですね、測定ということを仮置
場であればモニタリングポスト、市が設置したモニタリングポストでもってまず連続で測
定して、ホームページでも公表されているというふう聞いていたところでございます。
また、それ以外にハンディーな測定器でもって週1回ほど測定をしているというふうに聞
いているところでございます。あと、現場保管ですね、現場保管の場所としては小・中学
校とか幼稚園とか保育園とか公園というところがございますけど、それは我々規制庁が設
置しているリアルタイム線量測定システム、モニタリングポストですね、あと県も設置し
ていますが、そういうもので測定をしたりとかしているということも聞いております。

それから、11ページでございますけれども、こちらは今度は除去土壌を運搬していくと
いうことで、いわき市さんのほうから中間貯蔵施設のほうに持っていくということござ
います。大熊のあっちの浜通りのほうにあります中間貯蔵施設というところですよ。そちら
に持っていくに当たっては、まず環境省というところで、輸送経路で輸送車が集中する
ところ、そういったところで放射線の測定をしていますという、こういう御紹介をさせて
いただきました。また、運搬において運搬する先とかで、また運搬する運搬元とか、そう
いうところでも表面の測定を市のほうで行っているということをお聞きしているところ
でございます。そういう状況を説明をさせていただきました。

また、搬出の目処ですね、土の搬出の目処でございます。これについては、いわき市
さんから伺った情報によりますと、まず仮置場から全部搬出をする見込みとしては平成33
年度を予定しているというふうにお聞きしました。また、学校ですね、そこからの搬出
の見込みというものも、これは平成32年度を予定しているというふうにお聞きして
おります。また、学校以外の場所からの全部の搬出の見込みというのが、これが平成30
年度を予定していると

いうことをお聞きしたということをお紹介させていただきます。

それから、12ページですね、12ページの見直しについてでございます。こちら、まず、我々のほうのモニタリングポストの見直しの一つの案として、可搬型ポスト、水準ポスト、監視ポストという青枠で囲われたところなんです。ここについては維持と書いてありますけども、こっちについては残していきたいと考えているところでございます。また、赤い枠で囲っているもの、いわゆる赤ポツですね、赤ポツのもの、これについては線量が低く安定しているところ、ここは撤去をして、いわゆるもうちょっと高いところのほうに、できれば使えるようであれば高いところに移すとかいう形で整理をしていきたいなということをお紹介をさせていただきました。以上でございます。

○南山総括調整官 よろしゅうございますか。

恐縮です。ほかにこのページの説明がまだもう一回聞いてみたいというような御質問ございますか。よろしいですか。

あっ、じゃあ、後ろの男性の方、黒いジャケットの方、恐縮でございます。

○参加者 リアルタイム線量測定システムの見直しの図なんですけども、見直す現状は2,974台、何ページでしたか、3ページぐらい。見直した後、574台になると、こういうことで理解はよろしいんでしょうか。

○南山総括調整官 よろしいですか。

○武山監視情報課長 先ほど申し上げました、まず撤去する対象としては $0.23\mu\text{Sv}$ 、1時間当たり $0.23\mu\text{Sv}$ という、そういう線量率のところ、それを境にして、それよりも低いところを撤去をしようかと考えています。これは、実は幾つかはまだ高いところもございまずので、そういうところは残るといふふうに考えていますけれども、年がたつとだんだんそういうところも下がってきているので、極端なこと言うと、ここはいわゆる12市町村ですね、いわゆる避難指示があった12市町村、これ以外のところを全部撤去するとすると574台残りますということでございます。そういう一応一つの目標といたしますか、そういったものを示しているところでございます。

○参加者 全体として2,400台少なくなるということになりますね。

○武山監視情報課長 はい、そういうことに。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

じゃあ、下の真ん中の白いジャケットの方。

○参加者 線量が上がる要因として放射性物質が福島第一原発事故由来のものに限定して

いるように思うんですね。

○南山総括調整官 何に限定している……。

○参加者 福島第一原発の事故由来のもの、そこから出たもの。要は、今、東海第二原発が再稼働されようとしている。それが事故が起きるといふ見込みはないのか。そういうことのそういう危険性を除去しているように考えているというふうには思うんですね。

○南山総括調整官 福島第二原発の再稼働ですか。

○参加者 東海第二原発です。

○南山総括調整官 東海第二ですね、失礼しました。ちょっと聞き……。

○参加者 ええ、それが第1つ目。

2つ目、情報が正しく伝わるように努力どうのこうのとありましたけども、今までいろいろなことがありましたけども、情報が正しく伝わったためしはない。情報のそういうことの努力の成果がさっぱり見られない。私たちはいつまでそれを待てばいいのかと、そういうことですね。

あと、3つ目、先ほど原子力規制委員会が規制保安院が原子力規制委員会になった由来をお聞きしました。ところで、その規制委員会にはもとの保安院の職員をしていた人が横滑りしている。私たちはその規制委員会は反省に立ってやっているということについて信頼できない。一体その信頼得るために規制委員会はどのような努力をしているのか、さっぱり私たちは見えない。具体例を申しますと、今の規制委員会の更田委員長が先ほど問題になったトリチウムじゃなくて放射性物質の汚染水、それは全部薄めて流せばいいんだというのを平気で言っている。一体その反省はどこへ行ったのか。

あと、最後に、先ほど住民の説明会を通じて言われた意見を反映するとしていますが、そのシステムはどうなっているのか、責任者は誰なのか、このことについて具体的に意見を伺いたい。以上です。

○南山総括調整官 ありがとうございます。4点ほどございました。東海第二の事故はないのかと、それから情報伝達、どういうことになっているんだと、それから規制委員会が保安院の横滑りではないかと、規制の努力をしてないんじゃないかというようなこと、それから意見反映のシステムはどうなっているか、この説明会の意見反映のシステムはどうなっているのかというような御意見だったと思います。いかがですか、順次。

○武山監視情報課長 まず、東海第二でございますけれども、東海第二は今回の我々のほうで重大事故に対する対応と、対策というものを主に審査をしたわけですが、重大事故が

起きたときにおさめることができるかということでございます。ただ、当然ながら重大事故が起きたときに放射性物質が外に出るという可能性は当然ありますし、出てしまうでしょうということでございますので、それにおいてある一定の基準ですけれども、それをクリアしているかどうかということを見たわけです。だから、事故が全く起きないかということ、それは絶対なくて、事故というのは起こり得るものですということでございます。

○参加者 答えになってないです。

○武山監視情報課長 事故は一応起こり得るということ。

○参加者 それを監視するシステムはどういうふうに持ってくるの。

○武山監視情報課長 ええ、それを監視するシステムで、今、東海第……。

○参加者 ……ことはどれだけあるの。

○南山総括調整官 恐縮でございます。マイクを、今、発言していますので、発言が終わりましたら再度回します。

○参加者 答えが……となっていないから聞いているんです。

○南山総括調整官 途中で話を折らないでいただきたいということでございます。恐縮でございます。

発言続けてください。

○武山監視情報課長 東海第二原発、この周り一応30km圏内にモニタリングポストを置いています。それでもって何かあったら検知をします。それをもって必要な情報伝達ということを行うということでございます。そういう一応システムを構築しているということでございます。

また、先ほど情報が正しく伝わらなかったのではないかという話でしたけれども、我々の福島の事故のときに、そういう今言ったような情報伝達というところについてできなかったということは反省をしているわけです。それに対して、僕らとしてはそれができるように、先ほど言った防災のシステムの構築というのを鋭意やっているとございます。ということございまして、訓練などを通じてできるようにしていきたいというふうに思っているところでございます。

また、原子力規制委員会でございますけれども、こちら確かに原子力規制委員会、委員会の先生自体は保安院ではないですけれども、規制庁、我々事務局ですけれども、我々事務局は確かに保安院の人たちが横滑りに入っているというものは多いほうであります。ただ、なかなか今後どうしても原子力規制の世界というのは、また原子力の世界というのは、

実はそんなに人材は多くありません。どうしても人材は少ないものです。したがって、どうしてもそういう人たちは入ってしまう。

だから、我々として、実は、私自身も保安院の人間でした。しかしながら、原子力規制委員会というのはここにいる先生方が入りましたけれども、大きく変わったのは、上のトップの方がやはり学識経験者であって、きちんと一応国会で選ばれた方が、国会で承認を得られた方ですので、非常に強いリーダーシップのもとで僕らは仕事をしています。何というんですかね、かつ権限も独立した形で持っている。今までは、昔、原子力安全委員会というのございましたけど、原子力安全委員会というのは権限がなかったわけです。保安院とかそういうところが権限を持っていて、そういうなかなか、何というんですかね、規制というか制約というか、規制がきかなかったというところがございます。

今回、我々は直接、だから原子力規制委員会は規制を行うと、それは規制というのは事業者に対する規制とか原子力に対する規制を行うということで、非常に強力な形になったので、これはアメリカの原子力規制委員会に倣った形の組織だと思っていますので、これを信頼していただきたいなというものは率直な意見でございます。

あと、反映のシステムです。これは……。

○南山総括調整官 説明会の意見に対する反映のシステム。

○武山監視情報課長 これは我々、当然、今日お聞きした意見も含めて、全ての意見についてはちゃんと原子力規制委員会、こちらのほうで報告をさせていただきますし、僕らのほうとしてもこの意見に基づいてどういうふうにしたらいいかということについてきちっと考えて、それをまた規制委員会のほうに諮って決定していただくということを考えているところでございます。

○南山総括調整官 では、追加で。

○参加者 今、東海第二原発の事故の場合の監視システムを30km圏って言いましたけども。

○南山総括調整官 重点区域ですね。

○参加者 飯舘村は福島第一原発から30km以上なんですよ。福島だって郡山だってもっと離れていますよ。ということは、福島第一原発の事故の教訓を全然反映してない。どういうふうに事故を反映したという、……から、反映しないんじゃないのということが見てとれる。規制委員会からの保安院から横滑りしたって言っているけどもね、委員長は反省していると言いましたけども、その委員長がトリチウム汚染水をばんばん薄めて流せて言っているんですよ。これどういうふうに反省しているんですか。逆に住民の側の危機意

識を規制しているんじゃないかという、そういう危機感がいっぱいあるんですよ。全然言葉に真実味がない。

○南山総括調整官 少し事実関係のところを補足するところがありましたら。

○武山監視情報課長 先ほど30km圏のモニタリングポスト、モニタリングポストとしては30km圏に設置をしているわけですが、それ以外に実は我々も自動車を使ったモニタリングとか、あるいは航空機のモニタリング、こういったものもやります。だから、そういったものも併せてやります。モニタリングポストは確かに30km圏なんですけど、外の部分についてはそういうものも使って放射線のレベルというのを見ていくと。それによってある一定のレベルになると避難、一時移転ということを考えるということでございまして、今、目安として一時移転の目安は $20\mu\text{ Sv/h}$ と、1時間あたり 20μ というのが一時移転の目安になっています。

○参加者 関連です。今の関連でいいですか。

○南山総括調整官 ちょっとこちらのほう先にいいですか、マイクをお持ちします。

ちょっとお座りになってください。

○参加者 せっかく原子力規制委員会さんがパワーポイントつくられているので、最初から順番に、私、あんまり政治的なこと言いたくないので、科学的なことを順番に示したいと思いますので、一番最初、私がつくったスライドじゃありませんけど、一番最初のページからお願いできますか。

その次。

その次。線量が低くなっている現状というの、私ちょっと納得できません。確かに半減期が来て、短半減期とかセシウムでも2年の半減期のもの下がっていますが、人間に対する影響というのは、ちょっと専門的になりますけど、生物に関して預託線量で効いていきますね。預託線量というのは我々人間がどれだけ線量を浴びてこれからも浴びるかという。預託線量、もう預託じゃなくていわき市の特に子どもたちの線量は蓄積されていますからどんどん高くなっているんです。線量が低くなっているというのは外部線量が低くなっているというだけのことで、これをもって線量が低くなっている現状というのはちょっとおかしいと思います。

その次、お願いします。それから監視体系、これはいいです。

その次、お願いします。モニタリングポスト、これは南山さんとおっしゃるんですか、にもお話をかなり前からさせていただいたんですが、ここの富士電機製と言われているよ

うな可搬型モニタリングポスト、我々のところではどこにあるかという、小名浜支所、私、泉ヶ丘に住んでいるんですけど、小名浜支所にこれ存在します。この値が実は0.03という値で、NHKなんかでいわき市の最低でほとんど使用されている値です。0.03というのはおかしいんですね。いわき市、もともとバックグラウンド、自然のカリウムの放射線、原発ができる前で0.04なんですね。0.03でなんでこんな低い値が出てくるかという、富士電機製の装置、見られたらわかると思いますけど、下のところは全部コンクリートで覆われています。設置するときにコンクリートで覆われていますから、地面のセシウムは入ってきません。しかも、この可搬型はつくった人が悪いわけじゃないですよ、さっき話にも出てきたガス型の放射性同位元素を検出するのが目的で開発されている機械ですから、下に蓄電池まで入っている。何のことはない、セシウムわからないんですね。こっちを残して横にある富士電機製、オバQ型と言われているというふうにお聞きしましたが、こちら側はそういう設置じゃないので、比較的高い値が出てきます。

少し説明のあった堀場製作所製のラディという機械があります。終わりのほうで出てきた簡易型の持ち運んで運べるという装置ですね。あれで測りました、私。戻してもらって構わないです。そうしましたら、可搬型の値はラディと合いません。0.55ぐらいだったんですけども、こちらだと0.03。県のほうに連絡しました。そしたら県のほうもすり込まれているみたいで、いや、値は低かったんですけど、そのときの値なんじゃないですかって言われました。そうじゃないんですね、だから富士電機製のほうのこちらの可搬型を残すというのはちょっと私は考えが逆だと思います。

費用すごくかかると思うんです。余計な費用よりもやっぱり食品の安全性とかいろんなことにお金使ったほうがいいと思いますから、モニタリング、このお金のかかるモニタリング装置を廃止するということはいいと思います。やむを得ないと思います。でも、今、例えば、僕、自分で製作したら数万円でできるんです。今のパソコンを使わなくてもラズベリーパイとかちっちゃなミニコンでも大丈夫じゃないですか。ミニコンでもいいからそこらじゅうに置けばいい。せつかく地点決めたにもかかわらず、後で合わない、同じデータとりたいとかおっしゃっていましたが、補正乗数掛ければある程度のはわかるんです。だから、測定点を減らすということは絶対によくないんですね。数学的に逆問題と言われている問題ですね。ブルーボックスなんかで、逆問題なんかで東京海洋大学の先生なんかお書きになっていますね。そこで例えばトリチウムの放出なんかというのは、実は測れて安全だったら放出していいって言っているけど、測れないと。測るためには膨大な

費用とお金がかかるってこと、ちゃんとその先生、指摘されていますね。海洋測定ってそんな簡単じゃないんですよ。生体の測定だってものすごく難しいんですよ。こういう測定すごく簡単なんです。こっち側やるべきなんですね。

次、お願いします。

次もお願いします。これの値もナンセンスですね、平均する意味、何かありますか。場所違うんです。日本全国で交通事故は対策しなくていいということになりますよ。飛行機なんか墜落しないでいいじゃないですか。こういうのはおやめになってください。

その次。これは平均分布出したってしょうがないんですよ。死ぬ人は死ぬんです。死なない人は死なないです。ですので、誠実に距離とか地形によってどうなっているかを調べほしいです。そのデータじゃなきゃ意味ありません。

もっと言いましょうか、ここで言っているのちよっと問題なんですけれども、例えば食品の測定で、いわき市のこのちよっと先の地区のきのこでも1,000Bq/kg、多分超えていると思います。出ているんですね。みんな知っているんですよ。山林の中にもものすごい線量がたまっているんです。だから、ここから先、10年、20年と、半減期30年ですから、もっと長いやつだってあるかもしれません。圧力容器破壊されているんだからプルトニウムだってあるかもしれませんよ。そういったものが下に落ちてきますから、今低いから、何度も何度も言われています。今低いから撤去する。これナンセンスですよ。予防接種なんかと一緒にじゃないですか。線量が今低いから置いておくんです。今低いから置いておけば高くなったときにすぐ対策できるじゃないですか。今低いから撤去するなんていうのは全くもって非科学的です。

次、お願いします。

次、お願いします。これですね、ごめんなさい、ガス状の原子炉からなんてみんな今心配しないんですよ。これもだましですよ、きつい言い方したら。そうじゃないんです。今降っているやつが移動しているんですよ。瓦れき撤去、燃料取り出しが行われていても言っていますが、これはおどしになるからちよっとまずいと思いますので、原子力規制庁の方、おわかりになっていますよね。3号炉の構造というのはウラニウム型の広島型原爆、バレル型原爆と同じ構造に今なっているんですよ。上にウラニウムがある。下に溶けたウラニウムがある。圧力容器で分離やっているけども、ほかのは落っこっちゃって……かもしれないけども、廃炉作業のときに間違っただけで下に落っこちたら、これNHKとかいろんなところでも何か可視化すると緊急炉心で今まで水出すかわりにホウ素を出すから安定的

に廃炉ができるとか馬鹿なこと言っていますよね。緊急炉心って昔の有名な、計算機放射線学やっている人間だったら絶対知っている有名な計画があって、実験して失敗して計画すらできなくなっちゃったって有名なのがありますよね。ああいう不確定な技術で廃炉をせざるを得ないんです。廃炉しないで、廃炉というか、再臨界防止ぐらいだと思っただけでも、再臨界防止をするための工事をする際に再臨界を起こす可能性がある、これは誰もが認めておられますよね。そのときにモニタリングポストなかったらどうするんですか。僕自身は東海第二にはそんなに危なくないと思います。よっぽど廃炉のほうが危ないんじゃないですか。そこの廃炉における再臨界の危険性というのはありとあらゆるところで言われていて、さすがに規制庁さんもそのリスクないとは言えないでしょう。そうなったときにどうするんですかということなんです。やっぱりポスト必要でしょうと。

東海も今、昨日、NHKでやっていましたよね。結局、避難計画立てられないから屋内退避にすりかえ始めましたね。屋内退避できませんよ。いわき市は経験していますよね、病院とかで医薬品がない、電気がない、病院どうするんだ。病人、放っておけないから医者や看護婦や介護の人が残る。いわきの市長さんが食料品ないから送ってください。誰も車、そんなところ、運びには来てくれませんよね。こういう危機が起きたんですよ。ですから、モニタリングポストというのは、今、線量が低から撤去するなんてのは大馬鹿な話でね、ここから30年間、廃炉するんだから残さないといけないんじゃないでしょうか。

その次、お願いします。これも問題なんです。確かに管理されていたらいいんですけどもね、私のうち泉ヶ丘です。泉ヶ丘は除染対象区域外です。そうしたら、土壌を自由に出していいって勝手に国が言ったんですよ、言っていますよね、それはね。除染対象区域外は土のうを出してよろしいってなっている。だけど、場合によったら、僕は、僕か周りの人は逮捕されますよね。障害防止法違反ですから。測って、もしあるのであれば。対象区域外ってものすごくブロードなんです。局所的には障害防止法に触れる可能性があります。私、自分のうちラディで徹底的に調べました。私のうちは除染対象区域外ですけども、局所的には、四隅とかははるかに危ない値が出ています。そして、どれぐらい離れると安全かという庭の敷地のレベルでは検出不可能ですね。逆二乗則きいてきますから。庭の四隅は例えば玄関とかすごく線量が高いんですけど、うちの中に入ったらもうわからないですよ。玄関通っているときはすごい被ばくですね。

側溝はひどいですね。ですので、皆さん、いわきのそこら辺に住んでいる方、御存知と思いますけど、いわき市は国のお金で下水溝の掃除をしました。あれ、おかしいですよ。

あれ、我々には危険だから下水溝を掃除をするな。7年間たっちゃって水があふれちゃってどうにもならない。除染工事じゃない形でやったんですよ。写真も私、撮っていますけど、そこらじゅう除染工事じゃないですから上げるは、一応ね、バキュームカーが出てきて吸い取っていますけど、そこらじゅうにまき散らしているんです。その側溝の砂というのは0.1 μ か、はるかに超えています。0.2とか0.3とかあります。私のうちですらそうでした。側溝のあんなに厚いコンクリートの中をやっている、上にふたがあっても、穴のところを置くとかなりの高線量が出てくるんですね。流した後は川の中にまた入っていきますね。ですから、こんな安全な管理なんていうのは絵に描いた餅なんですよ。

もっと言いましょうか、住民もやっぱり自分がかわいいですよ。自分のうち直した、駐車場直したときに、30cmの自分のところに盛り上げられますか。僕、自分ちの除染工事やって、ほとんど事故前まで戻しました。10cm砂利を積んで、その上にセメントの化粧板を庭中に全部敷きました。一般の方、これできないと思いますよ。

○南山総括調整官 ちょっとすみません。短めにお願いできますか。

○参加者 ですので、こういうふうには外観の監視だとかこういうふうには法的にやっているところ以外のところにもものすごい量、結局、市民も悪いとは思いつつやらざるを得ないからいろんなところに出しているんですよ。つまり、再分布がいろんなところで起きているんです。よろしいですか。山から落ちてくるものの再分布、市民がごみを出したりいろんなことをするの再分布、それからいわき市の場合は2カ所の焼却炉があります。その周りすごく線量高いですね。これモニタリングポストでも出ていますね。ですから、こういった例外的にうまく管理されているところの話はいいんです。そうじゃないのを見るためにモニタリングポストがあるはずですよ。

次、お願いします。これも同じですね。こんなふうにはきちんとやられているところはきちんとやられているからいいんですよ。そうじゃないんですということです。

次。予想外のところに出てきている。

ここも同じ内容です。

この次、お願いします。これ、いつでもどこでも測定できますは大事ですけども、これも測定法をきちんとマニュアルか何かつくってやられたほうがいいと思いますよ。簡単じゃないですよ、これ。大体30回測定をして平均をエクセルか何かでとってやらないと、例えばここに書いてある0.05ぐらいであれば有意な値は出せません。学会で発表やったときにどれぐらい信頼性があるか、いっつも言われるので方向依存性とかいろんなものを含め

で私全部やりました。やはり30回ぐらい連続して測定をして、その値をとってやらないと線量率低いので、これ無理です。

○南山総括調整官 よろしいですか。御意見として記録はさせていただきます。

規制庁側、何か事実関係で補足するなりコメントございますか。河村さん大丈夫。

○滝田課長補佐 すみません、滝田でございます。

ポストの値でたしか小名浜の何というポストか……。

○参加者 小名浜支所です。一番ですね、普通の市民だと一番……。

○南山総括調整官 マイクをお願いします。

○参加者 市役所の横に置いてあるやつですね。そこに関してはもう南山さんとかなり話しておりますので、事実関係、御確認ください。把握されていると思いますから。そこには可搬型が置いてあるんです。

○滝田課長補佐 そうです。そのとおりです。私のほうから今質問したのは、何かリアルタイム線量測定システムのほうというふうに関心したので、その確認をさせていただきかけたからです。

○参加者 いえ、可搬型が。

○滝田課長補佐 可搬型ですね。わかりました。

○参加者 可搬型の問題だけじゃないです。設置の問題なんですよ。

○南山総括調整官 ありがとうございます。そこについては確認させていただきます。

あと、よろしいですか。

では、ほかの方。すみません。先ほど関連ってございました、女性の方、上のほう、恐縮でございます。後ろからマイク参ります。

○参加者 この前の方の質問に対する政府のほうの答弁に関連なんですけれど、私は今の方のように専門的な知識は持っておりません。でも、ごく普通に在る住民として、今日も話をしてきましたけれども、なぜこのモニタリングポストが私たち今現在でも必要としているのかということです。福島原発が安全神話、絶対大丈夫だという政府、それから東電のほうの言ってきたことで、しかし皆さん、事故を起こしましたよね。それが皆さんは人災であるという認め方はしてないようなんですけれども、でも事故は起きました。

その中でね、先ほど東海原子力発電所の事故が起きた場合のことを質問されました。それでモニタリングポストが少なくなっても自動車とヘリコプターを飛ばすから管理できるんだという話でしたよね。では、安全神話の中でこういうあまりにも突然に、もう皆さん

の人災とは認めない中ではありますけれども、事故が起きました。原発の事故っていつどんなふうにして起きるかわからないのは皆さんも百も承知ですよ。その中で、ヘリコプターと自動車で測定するので大丈夫だって言われて、皆さん、納得しますか。

先ほどね、今、泉ヶ丘だって言われた方も今後の廃炉の問題、それを考えると私たちは何十年かかるか、皆さん数十年という言い方はされますけれども、どのぐらいかかるかわからないでしょう。除去の廃炉の仕方もまだ確立されておられませんよ。その中で、今、撤去されてしまったら同じ過ちをあなたたちは県民に犯すということになるんですよ。私たちはモニタリングポストが今現在ここに置かれて、自分の目で確かめられる。でも、何かモニタリングポストの機種によってもまだ問題があるって泉ヶ丘の方おっしゃっていましたので、それをぜひ改善させていただいて、モニタリングポストを置く場所、それからその方法をきちっとしていただいて、正確な数値がわかるような方法をとっていただいて、なお、これは継続をする、それが皆さん、事故を起こした皆さんと、それから、事故を起こしたという認識はないようですよけれども、東電と皆さんの責任として、県民や国民に対する責任としてきちっと捉えていくべきではないでしょうか。多分、恐らく専門的な知識を持っていない一住民、私たちは今日参加されている方もそのような捉え方はしていると思いますよ。以上です。

○南山総括調整官 それは御意見として承ったと思いますけども……。

○参加者 要望です。

○南山総括調整官 要望として規制庁側、何かコメントすべきことありますか。

恐らく一部ポストが全く要らないという話は誤解だと思うんですが。

○参加者 全く要らないんじゃないなくて……あなた……でしょう。

○南山総括調整官 ちょっとすみません、申し訳ございません。マイクをお願いします。

○参加者 あなたの今の言い方は間違っております。全部撤去するということではないです。少なくするということに対する異議を申しました。

○南山総括調整官 了解しました。ありがとうございます。

何かコメントございますか、規制庁の。

○武山監視情報課長 まず、自動車とかヘリコプターですね、これ使ってやるって、これは私が言ったのは東海第二でもし事故が起きたときに、モニタリングポストに加えてそういうことでやってみるんですということなんですけれども、いわきのところは、今、我々の案では50個の可搬型ポスト、そういったものとか監視ポストとか水準ポスト、こういっ

たものでどうかということを行ったわけですが。我々としてはそれで十分かなというふうには思っていたんですけども、皆さんは自分の目で線量を確認するという意味で近くにあったほうがいいということで、モニタリングポスト、今、リアルタイム線量測定システム、これも維持してほしいと、こういう御意見だと思います。

例えば、ここの近くで申し上げますと、ここの公民館にまず1個ありますね、モニタリングポストがリアルタイム、隣にもあるんです。

○南山総括調整官 ここ、市民会館ですね。

○武山監視情報課長 市民会館。公民館。それから隣の支所にも実はあるんですけども、そういう意味では、モニタリングポスト、実はすごく近接したところに3つあるという状況もあるんですね。そういうのを考えなきゃいけないなと思っています。

○参加者 何言ってるのよ。あんたたちの撤去する数、見てみなって、そんな数じゃないでしょうって。

○参加者 すみません、科学的にね……。

○南山総括調整官 ちょっとお待ちください。何か追加がございますか。

○参加者 今の私のでいいですよ、どうぞ。泉ヶ丘の……話、どうぞ。

○南山総括調整官 いや、一人の方に偏ってはいけませんので、ほかの方に回したいと思いますけど、よろしいですか。

じゃあ、真ん中の男性の方。

○参加者 線量が下がってきたから撤去するという考え方は全く理解できません。安全・安心のバロメーターなんですよね。やはりそれをなくすってことに私は反対です。

それから、その理由として幾つかあるんですけども、山林は除染されておられませんよね。この前に浪江の十万山で火災が起きたように、そのようなことがいつどこで起こるかわかりません。そして、その影響が私たちのところに飛んでくるということもあり得ることですし、それから原発の事故はいまだ続いているわけです。例えば中間貯蔵施設の問題とか、それからデブリの取り出しの問題、排気筒の解体の問題、それから大変、今、問題になっている汚染水の問題ですね。どれを見ても大変な作業だと思うんです。その中でどんな重大事故が起こるかもわからない。そして今、再臨界も起こる可能性があるということですね。ですから、やっぱりそういうのを確認できるこのシステムを残すべきだというふうに思います。

それから、説明になかったんですけども、聞くところによると、監視システムを継続

する場合は、財政負担を市町村に求めるというような話をちょっと聞いたんですけども、それが事実かどうか。もしそうであれば、そうでなくてもですけども、やはり事故の責任者は東電と国なんですよね。やはり国と東電が最後まで責任を持って住民が本当に何とか安全・安心だと納得できるまで続けるべきだというふうに意見を述べます。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

今、御意見の中に財政負担を市に投げかけるのかということは事実かという御質問がありました。これについていかがですか。

○武山監視情報課長 今、そういう話はありません。財政負担を市町村に求めるという話は今ありません。

○参加者 将来もないのか。

○南山総括調整官 ちょっとお待ちください、その隣の。

○参加者 先ほどからお話が出ていますように、低くなったから撤去するんだという、これから線量が上昇する可能性はないのかと。先ほどから専門的なお話をした人もいます。したがって、我々はこれから線量が上がる可能性がある。そのためにモニタリングポストの継続設置を求めますというふうな考え方なんですよね。それで、ここは勿来地区なんですけど、勿来・田人地区ではモニタリングポストが、地元のことばっかで申し訳ございませんけども。

○南山総括調整官 いえいえ、どうぞどうぞ。

○参加者 規制庁のホームページでプロットしているデータを場所をちょっと検出してみたんですが、73カ所あるんですね、可搬型も含めて。それで、撤去されるのが63です。その大半が学校、幼稚園、公園です。ちょっと私たちが身近に線量を見ていたのが全く見れなくなるということで、今後とも線量が上昇する可能性がある、これは維持していただきたいというふうに思います。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

では、1回発言された方はちょっと御遠慮いただいて。ちょっと1回発言されてない方。マイク参ります。

○参加者 どうもありがとうございます。今回のモニタリングポストを撤去しようというような話ですが、ただいまの説明では、どの程度のモニタリングポストがどの程度撤去されるのかという点が非常にぴんとこない。例えばいわき市のデータ、先ほど問題視して、なんでこれ平均すればいいのかというふうなやつが461カ所の値の説明、416カ所の値の平

均値だというふうなことでしたよね、これね。おたくの原子力規制庁で現在リアルタイムでやっているやつを見ますと、473カ所出てくるんですよ、毎回毎回のやつ。同じ規制庁の中で、それをデータで、CVSでダウンロードしようとする、466カ所になって出てくるわけ、いわき市の中でね。つまりこれどうしてこういうふうな数字の誤差がばらばら出てくるのかというふうなところが、別にいろいろ御都合で作為的にやられているとは思いませんが、いま一つこれはっきりしないなど。例えば説明のありました416カ所の中で、これいわき市の中ですよ。何カ所残るのかという点がはっきりしないなど思っていたら、先ほど何か説明している中で50カ所というようなことを言ったけど間違いないですか、これは。つまり、いわき市の中では今まで416カ所であれ473カ所であれ、これだけあったものをですよ、リアルタイムでも50カ所しか残さない。いわき市というのは非常に広大な地域で、もし50カ所しか残さなければ、それぞれ市民の皆さんが車で5分だとか10分だとか20分走らないと今まで見ていた線量計に触れることができないというほどなくしてしまおうというのが今回の、確かに数字で言えば0.23で切ったということですから、そういうことになるのかもしれませんが、10分の1にしてしまおうという話ですから、これはとんでもない話じゃないかなというふうに思います。

しかもその理由が、先ほど何人かからも御指摘はあったと思うんですが、線量が下がったというふうなことを第一義的に理由づけされているようではすけれども、これは放射線そのものは、例えば放射性物質を公道を使って走っていて事故を起こしたとか、先ほどから話がありますように、ここでいえば福島第一原発、あるいは第二原発で新たな放射性物質の放散、放出があったというふうなことでもなければ、一般的には線量が突然上がったり何かするというふうなことはあり得ないわけでしょう。だから、下がって低くなっているというのは当然のことであって、しかも廃炉作業をこれから迎えるに当たって、しかも福島第一原発もまだ明確な日程には載っていないんですけど、第二原発も廃炉に進んでいくということであって、これはもう通常原発の運転から比べればはるかに新たな放射性物質を放出してしまう危険性は高い行為ですよ。

そのために、今回の事故起きたときに、よく流行語ではないんですが、ホットスポットというような言葉もあったと思うんです。つまり、ああいう形での爆発や何かで飛散をした場合には、一般的にはそんなに高くないところもあるかわからないけれど、極端にちりや何かが集散的に起こったようなところは高くなる。だから、例えば5kmメッシュで全部測ろうだとか何かという努力を今まで続けてきたと思うんですよ。ということで、

一応、今、いわきの中で417カ所であれ460カ所であれ、それなりに市民の皆さんが現在の放射線の状況を見るというよりも、低くなっているということを見るんじゃないかと、新たな事故や何かが、今、起きてないというふうなことですよね。そういうことで日常生活を送れるというふうなことだと思えます。

原子力の保安院の制度解体して原子力規制委員会に、そういう意味では改組していったというふうな御説明もありました。先ほどからも意見ありますように、原子力規制委員会そのものも、国民、我々市民からそれほど深い信頼を得ていないというふうなことをよく御認識する必要があると思えます。この間の汚染水の問題でもそうですよね。トリチウムだけだというふうに言っていて、海に投げろっていったら、本来、海に投げられないようなものが、規制以上のものがあつたと。皆さん、それあらかじめ知っていて海に投げろって言っていたとしたら、それほど福島県民、いわき市民を傷つけるものはないじゃないですか。そういうことはつまりやるわけですから。しかも前は何の権限もなかったけど安全委員会は国会で今度は原子力規制委員というやつが選ばれてくるから信頼が置けるついたら、そんなものそれで信頼が置けるわけじゃないですか。

今の政府は原子力をどんどん推進しようというふうな方向でしょう。そういう中からつくられてきているある意味では規制委員会ですから、それほどまだ国民からの信頼は得てないと。皆さんがもっと懇切丁寧に国民の皆さんの意見をよく聞きながらやっていく、その10年、20年の長い積み重ねがなければ国民からの信頼なんていうのは得られないと。そういう国民の信頼が得られない中での規制委員会の皆さんがモニタリングポストをなくするというふうな、これとんでもないやり方になるんじゃないかなというふうに思います。ぜひやめていただきたい。以上です。

○南山総括調整官 御意見、またありがとうございます。

数字の話とか、事実関係で何か補足、コメントございますか、規制庁側。さっきの466とか。

○参加者 昨日、ホームページで調べてきた数だよ。

○南山総括調整官 恐らくリアモニの416と可搬型で合わせると460ぐらいになるんです。

○参加者 473カ所というのがというのが……。

○南山総括調整官 ごめんなさい、ちょっとマイクで。補足させていただきますが、足すと460ぐらいになりますね。それがホームページ上の表示としては合わせて460。

○参加者 473と、データ落とそうとする、ダウンロードで見ると466と出る。

○南山総括調整官 ごめんなさい、そういう意味で、470幾つに見えるという、ダウンロードしてなっていることの原因を今述べられますか。じゃあ、後ほど確認させていただきますけども。

○武山監視情報課長 ちょっとわからないです。

○参加者 自分のホームページだからよく調べてよ、それ。

○南山総括調整官 申し訳ございません。ありがとうございます。

○参加者 だから信用ないって……。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

○参加者 ……答えていただけてないんですよ。

○南山総括調整官 ちょっとじゃあ、もう一度、すみません。どこが不足しているかというところについて、申し訳ございません。流れの中で。

○参加者 すみません。一つ一つ順番に、私、そちらのホームページでお示ししたので、メモもとっておられると思いますから、最初からお答えを。

○南山総括調整官 この場でお答えするべき。

○参加者 答えられると思いますけど。じゃあ、まず一番最初のやつですね。線量の定義がどういう定義なのか。そちら側で線量が下がっていると言っていましたけど、預託線量は日々上がっているんじゃないですかという話。

その次……。

○南山総括調整官 ちょっとすみません。その預託線量と空間線量率の話とどういう関係になるかということですね。

○参加者 いや、線量が下がっているから、じゃあ……。

○南山総括調整官 これは当然、空間線量率の値が下がっていることを示している話ですね。

○参加者 順番に、じゃあ、わかりやすく言いますね。線量が下がっているから、全体を通しての話、線量が下がっているからいいというのではないのではないか。あくまで線量が上がることを考える。線量が上がっていることを考えてモニタリングポストは残すべきだと。線量が下がっているからいいということではないんじゃないか。

○南山総括調整官 おっしゃっている線量というのは実効線量という観点で内部被ばくは預託線量ですね。それで、そういったものがカウントされてない外部線量、外部の線量に関わる空間線量の値だけが下がっているということをもってモニタリングポストを下げる

べきではないという御意見だと思いますので、それは頂戴いたしました。ただ、この数字は……。

○参加者 どうお考えになっているかということです。

○南山総括調整官 よろしいですか。

○武山監視情報課長 まず、モニタリングポストは外部被ばくというか、それしかわかりません。内部被ばくはわかりません。

○参加者 いや、そんなことわかっているんですよ。そうじゃなくて、予防するために、外部被ばくが起きているということは、放射性同位元素がばらまかれていることなんですね。そして、例えば森にあるきのこなんかは食すれば内部被ばくになるわけなんです。そういったものの指標としてのモニタリングポストという意味があると。つまり、今のことではなくて、そういった意味において非常にそれは重要なものなんですよと。モニタリングポストが高ければ、そこにあるきのこは食いませんと。そういったような全てを含んだ預託線量を含めた意味で一つの指標になりますから、外部線量が低くなっているから外していいということじゃないでしょうと。もしそれが高くなったら、森からセシウムが流れ落ちてきているから、これやめようということになる。そういう意味で、将来を含めた預託、その人の人生におけることを考えると残しておいたほうがいいのではないですかということ言っている。無論ね、今のものすごくコストがかかるの残せなんて言ってないんですよ、僕は。

○参加者 コストはかかっても残してほしい。

○参加者 国の責任でやるべき。

○参加者 いや、コストの問題って個数にも、僕、よと思うんです。だから、安いやつを数多く残したほうが安全ですよと。さっき言われましたよね、周りのいろんなところに、すぐそばにもあるから大丈夫だ。これナンセンスですよ。おわかりになっていると思いますよね。セシウム、10m離れたらどういう線量率になりますか。だから、人の安全を見るのであれば、実はあんな1,000万もかかるようなやつでなくて、1戸に1個ずつ玄関に置くほうがいいですよ。そうしたら100万で済むんですよ。そういうふうな意見です。

○南山総括調整官 そういった御意見だと受け止めたので……。

○参加者 すみません。あともう一つ、もう1個だけ、廃炉に伴う事故の予防策として、さっき説明していましたが廃炉、事故が起きたとします。そのときみんな逃げなきゃなりません。そのときにモニタリング、すぐ間に合いません。廃炉のときの局所臨界のときなん

かにへりなんか飛ばせません。車なんか走れません。職員に死ねというんですか。だから、廃炉で局所臨界が起きて圧力容器が壊れるような事態が起きたときに備えて、みんなは逃げられる。飯館村では危ないほうへみんな逃げてしまいましたね。あんな悲劇起こさないために、やはりモニタリングはそんなに精度は、コストがかかる高いやつでなくてもいいから、それは残すべきですということに関してどうですか。

○南山総括調整官 おっしゃるとおりだと思いますので。ありがとうございました。

いや、モニタリングが必要ということに関しては同じだと思いますが、課長から総括的に。

○参加者 司会からじゃなくて、委員会の方の公式見解を……。

○南山総括調整官 課長から……。

○武山監視情報課長 モニタリングポスト、我々、モニタリングポストの役目としては、何か事故があったときに、それでもって線量を確認して、これでもって措置をするということになります。

どこまでつけるかという話だと思うんですね。今、大熊のほうでは福島第一原発、これ事故があった場合ということなんですけれども、これは今、いわゆる重点区域というのを定めていて、それは重点区域というのが福島第一原発から30kmの間ですね、そこが重点区域だというふうにしています。

○参加者 飯館村のことを考えてください。間違っって危ないほうに逃げていっちゃったんですよ。そういうことを考えれば、線量が低くなっている現状ゆえポストを廃止するというコンセプト自体はちょっと引っ込めたいということなんです。そのことに関してはあなたも言われている、僕の言われていることには反論はされていないと思っていますけど。

○武山監視情報課長 ポストも別に一方向につけているわけではなくて、全方向につけていますので、それでもってどっちのほうに行ったのかということがわかるというふうに思います。

○参加者 ……言っているんじゃない。

○武山監視情報課長 いや、だから飯館村の方向に行ったという話ですね。

○参加者 ……の話、聞いてんだよ。

○参加者 すみません、科学的に話をしましょう。30kmを離れたところまでガスプルームは圧力容器が破壊した場合は飛んでいきますと。その際に、いわき市の住民が逃げていき

ます。間違っって危ない方向に、つまり危ない方向というのは、原子炉から離れれば安全だということではないということにはわかったわけですね。SPEEDIやめっちゃいましたよね。あれだけ金かけてやって、SPEEDIないんですよ。どこに逃げたらいいんですかということなんですよ。

だから、その意味で、今ほどの高精度なエネルギー分析だなんだかんだは要らないにしても数は減らすべきではない。コストがかかるから減らしましょうという非常に非科学的な発想を、なぜそれだけ頭のいい方たちがいっぱいおられる委員会が出てくるのかというのは、僕はベクトルがやっぱりおかしいと思います。住民のことを考えるのであれば、コストかかるから廃止しようという方向に無理くりするんじゃなくて、コストを減らしつつ安全にする方法を考えるべきです。ですから、廃止ではなくて違う型のものにすると。場合によってはむしろ安いけど数増やすというのが当たり前なんじゃないですか。今せっかくあるやつは外してしまったら用地買収だなんだかんだ、ますます、次、やりにくくなりますよ。

○南山総括調整官 ありがとうございます。そういった意見を記録をきちっとさせていただき、委員会の場で検討させていただいて回答させていただくということによろしゅうございますか。

ありがとうございます。

すみません、一番後ろの白いシャツの方。

○参加者 確認したいんですけど、9ページ、いいですか、原発敷地境界面で年間0.0005mSv(=0.5 μ Sv)未満となっていますけど、この数字は正しいんですか。年間0.5 μ Sv未満、正しいんですか。

○南山総括調整官 いかがですか、数字について。

○武山監視情報課長 これはガス状の放射性物質によるということですので。

○参加者 いや、年間。そこは1時間0.08、さっきね、0.08。

○南山総括調整官 ごめんなさい、0.08というのは。

○参加者 1時間当たり。10時間も経ったら、もうこれ超えちゃうでしょう。数字間違っているんじゃないんですか。年間0.5 μ Sv未満。年間、1時間に直したら計測できませんよ。自然界に存在する値よりかはるかに低くて検知できませんよ。年間、もう一度聞きます、年間0.5 μ Sv未満。

○武山監視情報課長 これはガス状の放射性物質というものの寄与だけを考えていますの

で、ほかの寄与も当然あります。その空間に人がいるとですね。だから、それ以外に実際にもう既に汚染されている土地であれば、そこは当然汚染されているところからの線量というのはあります。足すと、当然、足せばこれよりも多くなります。だからここを言っているのは、ガス状の放射性物質だけで、原子炉建屋から出てくる、それだけを見るとこのぐらいですという、そういうことです。

○参加者 いや、年間。

○南山総括調整官 ちょっとすみません、今、説明途中ですので。

○参加者 すみません。その値って本当ですか、それ。机上の空論じゃないんですか。

○南山総括調整官 ちょっとお待ちください。すみません。後ろの方、今、御説明したのは……。

○参加者 いいですか、建屋の外は $0.08 \mu\text{Sv/h}$ 。

○南山総括調整官 それは何の数字ですか、すみません。

○参加者 覚えているの、モニタリングですよ。でも、これは年間、原発のところね、放出されているの、 $0.5 \mu\text{Sv}$ 未満ってなっているのね、合っているんですか。1時間に直したら幾らですか。検知できないでしょう。

○南山総括調整官 検知する話ではないというふうに、多分、今、話をしまして。

○参加者 いやいや、 $0.5 \mu\text{Sv/y}$ 、1年間ね、これ検知できるんですかって、この数字は。

○南山総括調整官 だから、検知する話ではなくて、被ばく線量を計算するとこうなっていますということが書いてあるんです。

○参加者 間違いなく年間 $0.5 \mu\text{Sv}$ なんですね。未満なんですね。

○南山総括調整官 というふう、被ばく線量のこの放射性物質の放出に関わる被ばく線量を評価した値としてこういう数字になっていますということを御紹介した。

○参加者 だから、大丈夫ですよと、法令基準以下になっていますよ。

○南山総括調整官 大丈夫云々じゃなくて……。

○参加者 すみません、SDはどれだけですか。

○南山総括調整官 ちょっとあまり専門的な話よりも……。

○参加者 そうじゃなくて、根幹のことなんですよ。あのね、これね……。

○南山総括調整官 ちょっとよろしいですか、マイク、こちらのほうに、いいですか。

○参加者 その前に、自然界で $0.5 \mu\text{Sv}$ 年間というのあり得るの。

○南山総括調整官 ごめんなさい、そういう意味では、これ放出される放射性物質の量を

被ばく線量に直した数字ということですので、自然界の……。

○参加者 いや、その数字が自然界でさえそんな数字はないでしょうって。

○南山総括調整官 違います。それは……。

○参加者 間違っているんじゃないんですかって。

○南山総括調整官 それは、その話の中に誤解があるんですということを申し上げているんです。

○参加者 これはそちら側が誤解させているんですよ、みんなに。

○南山総括調整官 ちょっとごめんなさい、マイクを、記録が必要なものですから、恐縮です。もう1個マイクがありますので。

○参加者 あんまり言いたくなかったんですけども、これ住民を誤解させるもとだからこういう表記はやめましょうよ。書くのであればね、推定される被ばく線量は年間0.0005mSvで、スタンダード・ディビエーション、標準偏差、つまりぶれがどれぐらいありますかってことを書かなきゃだめなんですよ。ぶれ、ものすごいでしょう、これ。算出やった平均値の値を勝手に書いただけで、SDめちゃくちゃ大きいでしょう。SDというのは、例えば皆さんがパン屋でパンを買いますよね、100gのパンを買ったときに、ぴったり100.000gかということです。そうじゃなくて、120gだったり80gだったりするということですね。平均として100gですよ。この場合は0.0005というのは平均値か中央値か、あるいはFORTRANか何かで計算をやった値ですよ。こういったね、推定で非常にスタンダード・ディビエーション、つまり推定誤差が大きいものを出して説明するというのは、これは僕はフェアじゃないと思いますよ。しかも、これ推定値なのか実測値なのか書いてないでしょう。年間0.0005mSvの変化量って何クーロンですか。これだけ馬鹿でかい測定器でずっと1年中測って検出するか検出しないかの値でしょう。だから、恐らくこれ実測値じゃないですよ。

○南山総括調整官 申し上げているように、被ばく線量の計算をして……。

○参加者 いいえ、被ばく線量の計算をする、係数に関しては、これは計算で計算でしか出ないのはわかっていますけども、そのもとになっているもとのガスの中の放射性同位元素のそれぞれのBq数というのは、測定、あるいは出してないわけではないはずですね。測定値も何にもなしに被ばく線量が出てくるはずないですから。どこかでは測定値あるわけでしょう。

○南山総括調整官 ですから、まず、河村のほうにも補足してもらおうと思いますけども、放射性物質の濃度なり量を測った上で……。

○参加者 だから、官僚答弁はいいんですよ、測定値をどういうふうに出したか教えてください。

○参加者 ……どうやって測ったんだか。

○参加者 そういうことです。どうやって測ったか、推定したのか。装置計の標準偏差、どれぐらいあるのか。つまり、この値はどれぐらいなのか。缶詰買っても100gってね、99gだったら通用しますけど、50gだったらみんな怒るでしょう、そういう話です。

○南山総括調整官 ですから、計量器で測ったものではありませんということですね。

河村さん、ちょっと補足できるところで。

○参加者 いや、全く何も測定も一つもしないで値が出てくるって、それはもうめちゃくちゃですよ。

○河村上席専門官 先生、おっしゃるとおりでございます。これ。実測しないと当然計算式、回せませんものね。だから、ここで言っているのは、ガス状の放射性物質による被ばく線量計算するために、もともとその空気1m³当たり何Bqという値があって、それであとは呼吸率とかいうのを掛け算して行って年間を出すって、当然、先生、御存知のとおりですものね。実測値というのをどういうふうに出したのかというのを今御質問されていて、そのSDが幾らだとかという御質問を今されているというふうに理解はしているんですけども。

○参加者 すみません、あのね、先に言っときますけどね、バックグラウンドのラドン、トロンとか考えたらね、測定できるんですか。地殻が持っている揮発性の放射性同位元素ラドンガスとかあるわけじゃないですか。

○河村上席専門官 もちろんあります、ラドン。

○参加者 この部屋だってコンクリートの、だからラドンだらけでしょう。そうしたらこの値の精度の測定できるんですかということです。そういうものを出すからややこしくなるんですよということなんです。確実な値で住民にはちゃんと説明しましょうよということなんですよ。

○河村上席専門官 ここで出した数字の根拠としては、1年の平均で毎時約12万Bqという実測値があって、それを使って計算した結果、こういうふうになりますということを出した値でございます。

○南山総括調整官 なかなかちょっとわかりづらいところかと思いますが、被ばく線量を出すのにさっきおっしゃっていた預託線量に変換する、その前に測定データとしては

何Bqの放射能がガス状の特にキセノンとかそういったものが今の原子炉施設から出ているんですかということ調べて、それを測定しています。その測定値から預託線量を出しているものがこのガス状のもの数字ですということですね。

○参加者 すみません、とっても信用できないのはね、例えば今、キセノンとかって話ありましたけども、原子炉建屋から一遍外に出て、残っているヨウ素とかいろんなものだとか、壊変してキセノンになったやつは含まれてないですか。意味わかりますか。

○武山監視情報課長 だから、バックグラウンド、ごめんなさい、確かにバックグラウンドは考えてないんです。本当に何か出てくるだけのやつ、そのとき、だから追加で出てくるものについて1年間……。

○参加者 だから、そうやって引き算、引き算ばかばかやっていっても逆問題で、値は幾らでもマニューバーできるから、こういう不正確な値を出すのをおやめになったほうがいいですよということなんです。

○南山総括調整官 ありがとうございます。誤解を招かないように十分注意していきたいと思えますけれども。

すみません、一番後ろの方、途中なんですけども、一応計算をした出した数字としてです、周りを計測しているモニタリングのデータとは違うものなんですということで、比較できません。ごめんなさい。

ちょっと私の言い方もうまくないのかもしれませんが。

ちょっとマイク、後ろから参ります。

○参加者 計測機器を減らすという話ですけども、原発のところからもくもくといまだに出ているわけですよ、放射性物質がね。もう出ないと、何も出ませんよといって、一度降ったやつがどんどん薄くなって、数値が下がってきたから数減らしましょうかというんならわかりますけども、いまだにもくもく出ているわけですよ、目に見えないやつが。溶けちゃったやつがどこにあるかも確認できてないわけですよ。多分、熱センサーで確認しているだけで、この辺だというだけで。突き破って下に溶けていつちゃったやつがどこにあるかわからない。世界の原発事故でこれは例を見ない話ですけども、それを取り出すすべもないわけですよ。溶けちゃったやつをサンプルとったわけでもないですよ。人工的にそういうふうなものはつくって研究はしているけども、果たしてそれ取り出したときに砕けちゃうのか固まりになっているのか砕けるのか、そういうことすらもわからない状況ですよ、今ね。それがすごい放射能持っているわけですよ。いまだにもくもくと出

ているわけですね。それが周りに落ちて薄まったり、雨とか風とかなんかで薄まって、今、平衡状態にあるわけですね。今、数値が下がったから撤去しましょうか。じゃあ、本当に溶けちゃったやつを取り出す作業に入ったときに何も出てこないんですか。それすらわからないですね。

固定式に設置しているやつを撤去するっていったらお金かかるわけですね。じゃあ、何かいっぱい出てきたってときはどこでわかるんですか。網の目のように設置してあるから高い数値が出たときにわかるわけですね。それ低いところとっちゃいましょうとか撤去しましょうってお金かかるわけですね。今度、設置するときは何を基準にして設置するんですか。今あるからこの数で何か異常があれば大変なことになっているかもってわかるけども、撤去したらわからないわけですね。

原発事故、終息したわけじゃないですね、いまだに出ているんだから。出てないならいいですよ。出る物質がもうないと、全部持って、どこか持っていっちゃいましたっつうんならこれ以上放射能が出てくるわけじゃないんだから、どんどん数値は下がっていくでしょうけども、大もとがそこにあって、取り出すこともできず。取り出すときの作業ってあと30年とか40年できるんですか、方法すらわからないのに。ここにいる人はみんな死んでいきますからね、そのころは、みんな。だから、俺は安心しているけど。でも、実際、取り出すといったら、溶けちゃったやつ状況、形状、構造とかそういうのわからないわけだから、つまめるのかね、ばらばらにならないのかとか、どうやって出そうとか、それすらわからないでしょう。ここにあるかさえもわからないんだから。そのときにはやっぱり危険ですね。大もとがなくなったわけじゃないんだから。もくもく出ているやつが今現状、薄まったりなんだりして平衡状態になっているというだけの話で、数値が下がっていったらとりましょうっていったら、今度につけるときどうするんですか。つけるときどうするんですか。測れない、わからなかったら誰もつけないよ。設置するのもお金かかるし、撤去するのもお金かかるし、また設置するのもお金かかるんだから、残しておいて何か問題あるんですかね。お金かかるんですか、現状のまま数を置いておくと、これだけの数を減らした場合と何かお金、予算とか相当開きあるんですか。ないと思うけどもね。とにかく今、中で防御服なしで作業できる状態じゃないんでしょう。もくもくいまだに出ているんだから。

それにどぶ掃除の件ですけど、いつも町内会でやっていたのが、突然、業者がやっていて、聞いたら、市で委託されていますって言った。へえって俺は思ったのね。ところがど

っこい、いわき市、六百何十km、全部業者に委託してやったんですよね。除染ですよね、どぶ掃除。知らなかったものね、ずっと。まだ終わる前にあっちこっちやっているの見たら、看板には除染とは書いてないですからね、ただ、どぶ掃除で、実質、除染でしょう。一般人が町内会でやったら危ないよということでやったんでしょう。でも、それ知っている人、あまりいないよ。そういうおためごかしみたいな隠しているような、不安を与えないためのものかもしれないけど、信用できないんですよ。何から何まで。

今、たまっている汚染、タンクもそう、いっぱいなっちゃったからどうしようもないから、薄めて流しましょう。よそはそうやっていますからと。あのお金、幾らかかったんですか、タンク設置するのに。出せないからといってタンクにためたんでしょう。いっぱいだから薄めて流しちゃいましょうなんて誰か言っていませんでしたか。それしか方法がないと。最初からそれしか方法ないんですよ、あの事故の処理は。薄めて流していいんだったら最初からタンクつくらなきゃいいじゃん。無駄なお金どぶに捨てているんじゃないですか。違いますか。

そのタンクの中には除去したはずのストロンチウムが高い数値であるとか、ストロンチウムは骨にたまるんですよ、骨に。薄めて流していいんならいいんじゃないですか、流せば、東京湾に。東京湾に、あのやつはね、飲めるだと何だと、薄めれば飲めるとかなんか言っていますよね、学者とかお役人が。薄めて流して飲めるんだったらいいんじゃないですか、処理して、東京湾に。なぜ福島に流さなきゃならないんですか。問題ないんなら東京湾、隅田川、多摩川、そこに流せばいいんじゃないですか。何か問題ありますか。薄めて流す問題。だったら今までどんだけお金かけたのは、タンクで、どぶに捨てているんでしょう。最終的にはそうなるんでしょう。もう敷地いっぱいなんだから。これからもどんどん出てくんだから、汚染水。もうどうしようもないんでしょう、薄めて流すんだったら、あの金どぶに捨てることになるんですよ、最初から薄めて流せばいいじゃん、問題ないというんならば、東京湾に。築地はね、築地じゃない、豊洲か、いっぱい水使うんだから、そこで使えばいいじゃん、飲んでもいいんなら。でしょう、なぜ福島に出すの。そういうことをあんたたちやっているから信用できないんですよ、何から何まで。

この図の数字だってそう。一般の人はすぐ意味わからないのね。比較したりとかなんかすると、どれが安全なのか。いや、基準値より下ですから大丈夫ですって。じゃあ、自然界はどうなんですかと。自然界と比較して、事故前に戻ったわけじゃないんでしょう。事故前に戻って初めて安全なんですよ。それを我慢して生きているんですよ。

ちなみに、除染したやつ、フレコンに入ったやつ、郡山市の市営墓地、広大な墓地、その一画、それも一画といったってかなり広大ですよ。お墓の横にだっと三段積みいっぱい。死んだ人間がかわいそう、お墓に入っている人。俺行ったら、おじさんところ行ったら、何だこれって言ったら、除染したフレコンだって。なんでお墓に置かなきゃならないの。東京のお墓に置けばいいじゃん、問題ないんなら。でしょう。全部そうやって押しつけているんでしょう。何、簡単ですよ、東京湾に流せない理由は。除染した土を東京に持っていけない理由は、住民反対するからですよ、違いますか。ここでも同じ反対するんですよ。東京湾に流すんだったら誰も福島県の人反対しませんから。これ、お願いしますよ。反対しないのは東京湾に捨てること。安全にしてね。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

では、後ろの男性の方。

○参加者 モニタリングポストの撤去に反対します。

モニタリングポスト、非常に大きな役割を果たしてきたと思います。放射線量がいかななのか身近で見れるということによって、子どもをそこで安心して遊ばせたり私たちが生活できたと思うんですよ。それから最初は高かった0.15とかだったんです、この辺ではね。それが今は0.08とかそのくらい下がってきて、だんだん下がってきているんだなということも、日々、目で見てわかったんですよ。それが毎日毎日見ているので、もうなれっこになっているみたいなどころもあるんですけど、大きなやっぱり安心の根拠になっていると思います。これからもだんだん下がっていくということを見ていきたいですね。ぜひやっぱり安心というかな、安心の根拠になっている、それを取り除かないでほしいというのが私らの今の気持ちですね。そして、もし今後ね、ないことを祈りますけど、確かにいろんな事故も考えられますから、そういうときのためにもやっぱりあったほうがいいと思います。なければないで非常に安心した状態が長く続くんで、確かに多少維持費のお金がかかると思うんですけど、そのお金にかえられないやっぱり安心というのは住民にとって非常に大事なものじゃないかなと私は思いますので、ぜひこの撤去はやめてほしいと思います。

○南山総括調整官 御意見ありがとうございます。

じゃあ、こちらの女性の方。マイクが、今、左手側から参ります。どうぞお座りになって。

○参加者 すみません。私は単純に子ども3人いるんですけど、ここで子育てするのがす

ごい大変なんです。私は震災のときの2011年の3月に……。

○…… マイク入ってない。

○参加者 すみません。私は正直ここで子育てするのが大変なんです。なぜかという、2011年の3月に、私は埼玉、東京と避難しました。そのときの子育て環境と2012年の2月に戻ってきたときの子育て環境が全く違かった。あのモニタリングポストがあるから、今いわきでは原子力防災の手引きというの配られているんですね。それというのは空間線量が何 μ 以上になったらどこに避難するように、新潟に避難するように、新潟避難とか、茨城に避難するようになっているんです。じゃあ、それどこで判断するんですか。避難所となる今リアルタイム線量測定システムが置いてある錦中とか錦東小とか、そういうところがないと私たちは判断できないじゃないですか。判断する材料を与えてくれなきゃ私たちはまた何かあったときに避難できないんです。私ももちろんウクライナ製の9万で買いました。でも、やっぱり行政が、結局、行政の人がリアルタイム線量システム見て数値を確認しないと何も動かない、動けない。避難するのも大変だったんです。

私、もう正直言うと、なんで原子力防災の手引きなんて配られなきゃいけないんだ。私そう思いますよ。もしね、東京とか横浜とかに避難し続けられていたらそんなの配られなくて普通に生活できていた。それがここに帰ってきて生活しなきゃいけないとなったら、やっぱり空間線量を意識して生活しなきゃいけないですよ。モニタリングリアルタイム放射線測定システムがなかったらどうやって見るの。私の空間線量の何万って持っていますけど、それだってやっぱり補正しなきゃ正確、補正しなきゃいけないし、それをもってほかの人に見せたって、こんなに高い数値出ているんですよって言ったって、ほかの人、信じてくれないんですよ。私はいわき市からこちらに載っていたような放射線の測定器も借りてやりました。学校の先生にも言って、こんなね、課外授業するところ線量高いんですよって言っても、学校の先生は何も動いてくれなかった。やっぱり目に見えるものじゃないととか、あと、行政の人が設置したとか行政の人が測ったという、そういう信頼度がないと何も動かないんです。

ここの除染といったって、町内会単位でやるんでしょう。町内会でどれだけひどいと思いますか。すごいいびどいところにぼつぼつとね、何かホットスポットがいっぱいあったって、子どもたちを登下校させなきゃいけなかった。うちの小学校のモニタリングポストリアルタイム放射線量測定器は0.11だったけど、通学路測ったら0.23とか超えていたんです、2012年の5月とか。歩道橋の下だって町内会長さんがこれで測ったら0.5を超えていた。

でも、そこしか通るところなかったから通らせなきゃいけないかったとか、そういうのがいっぱいあるんですよ、ここは。だから皆さんはね、こういう線量の数値だけ見てこんなに低いんだとかおっしゃるけど、私たちはこれだけじゃない。数字にあらわれてないものがあるんだという思いがすごいある。だから、取らないでほしい。

リアルタイム少なくとも、だって、私たちはここに住む以上、この数値を当てにしなきゃいけないんですよ、東京とか横浜とかほかのところに住んでいたら、こんなの意識しなくてもいいんです。だって、女川だって東海だってまだ爆発してないでしょう。私、宮城行ったら茨城行ったら何の不安もなく過ごせるけど、福島にいるということはあの原発がどうなっているのかって常に意識しなきゃ生活できないでしょう。地震が起こるたびに、地震が起こるたびにあの避難しなきゃいけないかったときのことを思い出して、すごい大変な思いなんです。私はこんな線量を意識した生活なんかしたくない。でも、ここにいないから、何とかやらなきゃいけないんですよ。それは避難をしてない皆さんとかにはわからないと思う。ここに奥さんとか子どもがいない皆さんにはどれだけ大変なんだか。

私たちは学校のところに線量のリアルタイム線量測定システムありましたが、結局、親が除染したんですよ、何回も。うちの小学校だって高いと思って除染しました。幼稚園だってね、これを置かれる前から表土除去して線量を抑えて、でも、またモニタリングポストの数値が高くなったっていったら、芝生剥がして何回も剥がして、リアルタイム測定システムの周囲の数値が低いのは住民の努力なんですよ。確かに科学的には今までのでそんなに医学的に問題はないとおっしゃるかもしれないけど、私は東京とか横浜とかあっちのほうに避難し続けられていたらこんなに子どもたちを被ばくさせなくていいんだという思いがずっとあるんですよ。ここに住む以上、線量は意識しないと生活できない。それなのになんで取るんですか。私はそれがずっと思っていた。ここにはもう既にばらまかれてるんですよ。それなのに取られたら生活できない。それをずっと言いたくて。

私も東京に避難していられていたら、東京にいたら、ここら辺の皆さんはホールボディカウンター、小学生で受けられたのは震災から2年後なんです。でも、私は東京に、高輪にあったんです、普通の病院に。だから、2011年の秋にはホールボディカウンター家族で受けられました。自分はどれぐらい被ばくしていたかってわかった。もちろんその当時、東京で流通していたものにも放射線が含まれたから、お医者さんから、これぐらいは東京に住んでいるだけでもあるって言われていた。けど、いわきが震災から2年たってからし

かホールボディカウンター受けられてないんですよ。そういうのも私はなんでなんだろうなって。こことかね、一番ひどいところが検査してもらえず、ずっとね、不安な思いをしながらここのお母さんたちは生活しなきゃいけなかったんですよ。だからもう東京とか文京区にね、SPEEDIがあったと思うんですけど、そこらでいらっしやって数字だけ見られていたら、大したことないことなんでそんな大騒ぎしているんだと思うかもしれないけど、私はここに住む以上、何か大変なんです、本当にここに住むの。

給食で、やっぱり行政の人が測った数字しかみんな信用しない。いわきのお米とかね、食品だって測定してくれたのって何年後ですか。何年後なんですよ。でもね、東京だったら千代田区とかあそこの区はそういう研究機関がいっぱいあるじゃないですか。千代田区なんか原子力の放射線量の測る機械、食品測る機械とかもいっぱいあって、学校ごとにもう親が要望出したらすぐに測ってくれた。それなのに、いわきでは、そんなことをしたらね、非国民だみたいになっちゃうんですよ。ここに住むのはすごい大変だし、子ども守るのも大変なんです。行政がちゃんと、国がお金を出して、ここに住む以上、ばらまいたのだから、ちゃんと測って、安心して住民が何か見えないもので争わないようにしてほしい。それはすごいあって、何かそのことも、すみません、感情的になって申し訳ないんですけど、ここに住む以上、これがない限りどうやって生活したらいいんだって、すごいそれはあるんですよ。すみません。

○南山総括調整官 いや、こちらこそすみません。どうお答えしていいか、ちょっと重い御意見だと思います。

ちょっと恐縮です。司会として進行の時間がそろそろありまして、よろしいですか。

○参加者 これは置いておいてください。だって、置いていてもらわないと困ります。避難もできないし。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

ちょっと、一番左の男性の方にマイクをお渡ししてください。

そのほかにこれだけは言いたいという方いらっしゃいますか。じゃあ、あと1名、ほかの方、よろしいですか。時間の関係でごめんなさい。

じゃあ、どうぞ。

○参加者 すみませんが、現状維持できないほどコストがかかっているんですか。それがちょっとわからなかったんですが、減らさなければならぬ、予算がとれないんですか。

○南山総括調整官 コストの話ですね。

○参加者 ええ。それと、これは国の責任として事故地への責任を果たすべきじゃないですか、現状維持して。

○南山総括調整官 という御意見ですね。

○参加者 ええ。事故がもう、原発がなくなるまでやるということが国の責任じゃないでしょうか。事故を起こした上の、以上ですが。

○南山総括調整官 御意見として承りますか、それともコストどのぐらいかかるのか。

○参加者 コストのことも聞きたいです、現状のコストと減らしてからのコストはどうなるのか。

○南山総括調整官 減らしてからのコスト。

○参加者 予算ですよ。予算とれなきゃ減らすんでしょ、そういうことなんでしょ、減らしたいのは。

○南山総括調整官 そこはちょっとどうですか。予算減らしたら、予算とれなければ減らすのか。その疑問に対してはちょっとあれです。

○武山監視情報課長 まず予算ですけども、我々、今、維持費として大体年間6億円ぐらいかけていますね。これは別に一つは1個1個のポストの点検とかもしなきゃいけない。あとは……。

○参加者 総額でいいですよ、細かいことは。

○武山監視情報課長 はい、そういうものあります。我々、これ自体は復興予算、復興特別会計というやつでやっていますので、復興特別会計自体が平成33年の3月で切れてしまうというのがあります。ただ、我々としては、それ以降もやっぱり継続しなきゃいけないということであれば、予算を獲得するためにいろいろ動かなきゃいけないと思ってまして、これも一つの動くために、皆さんの意見を聞いてどの程度の必要性があるかとかということも含めて考えて、また要求しなきゃいけない、こういうふうにいるところなんです。

○参加者 それはやっぱり事故地に対しての責任放棄しているんじゃない。

○南山総括調整官 すみません、マイク。

○参加者 事故地に対しての責任放棄じゃないですか、復興予算が切れるから切るということは。一般予算でとれるように頑張るのがお役人の仕事でしょう。

○武山監視情報課長 ですから、そういう意味で、今、切れちゃうので、その後でどうするかということをやらなきゃいけないということで、いろいろこういう形の一つとして今

お聞きをしていると、こういうことでございます。

○参加者 それはもう切ることを前提として考えているんじゃないんですか、お役人さんは。

○武山監視情報課長 いや、そういうわけではありません、そういうわけではありません。

○参加者 だからこういうふうに意見を聞いているんじゃないんですか。

○武山監視情報課長 いや、我々も撤去ありきで話をしているわけではないです。

○参加者 いや、この状態見ると、それが前提のように見えるんですがね。

○武山監視情報課長 そういうことではないということだけ申し上げておきます。

○参加者 それは信用できませんのでね。以上で、わかりました。

○南山総括調整官 御意見として承りました。

では、最後の方、白いジャケット。

○参加者 今、東海第二原発の危険性について、いろいろ予防システムについて聞きましたけども、やはり安心はできないと。今の放射能検知システムをやっぱり維持すべきだと、撤去には反対だとはっきり言いたいと思います。

さっき今のね、東海第二原発の危険性、飛行機など飛ばしてどうのこうのって言いましたけども、やっぱりそれ自体一つの基準が入っているんですよ。20ミリですか、その基準はおかしいと。それが一つ。

正確な情報がちゃんと県とか市に伝わるか、これ自体信頼できない。なぜか。私たちは既に学習している。あのSPEEDIね、システムは、先ほどあの方も言いましたけども、あれほどの金があったにもかかわらず、パニックを起こすからといって情報が伝わらなかった。遮断している、どこかで。その原因について私たちはわからない。それを一つ。

2つ目、やっぱり田人地区、線量高かったんですよ、田人地区。

○南山総括調整官 ごめんなさい、何地区ですか。

○参加者 田人地区。で、その山がどうなっているのか。

○南山総括調整官 山の線量が高い。

○参加者 ええ。今、山がどうなっているのか。山がどうなっているのか。それはわからない。

○南山総括調整官 不明だと、線量。

○参加者 ええ。だから、やはりそういうことをちゃんと調べてからにしてほしい、少なくとも。そういうことも放棄している。やはりちょっと住民の目線に立ってないんじゃない

いのというふうに思います。ですから、やはり自分の目で見て確かめるシステムはずっと維持してほしいということです。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

何か規制庁側、コメントがありますか。

○武山監視情報課長 いや、特に、住民が自ら確認するようなことが大事だということでございますね。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

○参加者 最後に。

○南山総括調整官 じゃあ、最後に。

すみません、マイク参ります。

○参加者 これ、今の説明会の回答はどういう形でどういうふうに出るのでしょうか。

○南山総括調整官 先ほど課長から申し上げましたが、全体の意見を取りまとめまして、規制委員会のほうに、委員会のほうにそれを上げまして、最終的に決定をするという運びになっております。

○参加者 違う、参加者自体、市民に対する……。

○南山総括調整官 それは議事で。

○参加者 質問者に対する回答というのはどういう形で出てくるんですか。今日の質問というのが全市的に例えば見れるような状態になるのでしょうか。

○南山総括調整官 先ほど冒頭申し上げましたように、全て録画されておりますので、その御質問とか御回答とかいう話で、この場で御回答できることはしますし、回答できないものにつきましても、書面にまとめまして、取りまとめて委員会の資料として委員会に報告する。これは全て公開資料としてなります。その上で御回答ということになりますので。

○参加者 本人に対しては。

○南山総括調整官 御本人に対しては、恐縮です、住所も聞いておりませんし、電話番号も聞いておりませんので、この場でいただいた御意見に対して委員会に持ち帰って御回答するという形になります。御了承いただければと思いますが。

○参加者 それは公表されるわけですね。

○南山総括調整官 そうでございます。

○参加者 どういう形。

○参加者 説明会ごとの公表するの。

- 南山総括調整官 説明会ごとではございません。全体、今、予定されているものを取りまとめて委員会に報告する。
- 参加者 例えば福島県全部をいう意味で、いわき市で、どの程度の規模で公開するの。
- 南山総括調整官 規模でというのは、この説明会ごとに……。
- 参加者 ……意見はこうだったということで話を、おおよその意見が多かったというやつをホームページで公開するときに。福島県としてはこうだったとかいうふうな話で……。
- 南山総括調整官 説明会……。
- 参加者 ……どうなるの。
- 南山総括調整官 ちょっとお待ちください。ごめんなさい、マイクがなくてごめんなさい。どういう単位で公表するのかということについて、冒頭で申しあげました説明会ごとに、いわきであれば3回を予定しておりますけども、3回ごとに全ての録画が公開されます。
- 参加者 どういう形で。
- 参加者 録画は録画そのものを公開するの。
- 南山総括調整官 録画そのものを公開するんです。
- 武山監視情報課長 追加で言いますと、まず、当然この映像はあそこで撮っておりますけども、皆さん、見えるようになります。公開されます。それからもう一個は議事録も、これ一応、議事録も残します。そうすると、どういう質問があつてどういうふうに答えたというのがわかるようになります。あとはそれと加えて、我々全ての住民説明会の意見をきちっとまとめて、それを規制委員会、これも公になります、公表する形、公でやりますので、当然ながら全部審議は公開されます。そういう中でそういうこれについてはこうだあだということについてはちゃんと公表することになります。
- 参加者 すみません。そういう場合当然録音なんかも載るわけですね。
- 武山監視情報課長 はい、載ります。
- 南山総括調整官 当然、この場で答えた話も載っているんです。
- 以上でございます。よろしゅうございますか。
- ちょっと時間、若干過ぎてしまいました。司会の不手際等、お詫び申し上げます。
- 本当にお忙しい中をお越しくださいます、ありがとうございます。
- 以上をもちまして、この住民説明会を今回終了させていただきます。どうもありがとうございました。

